

Tokyo Tokyo FESTIVALスペシャル 13

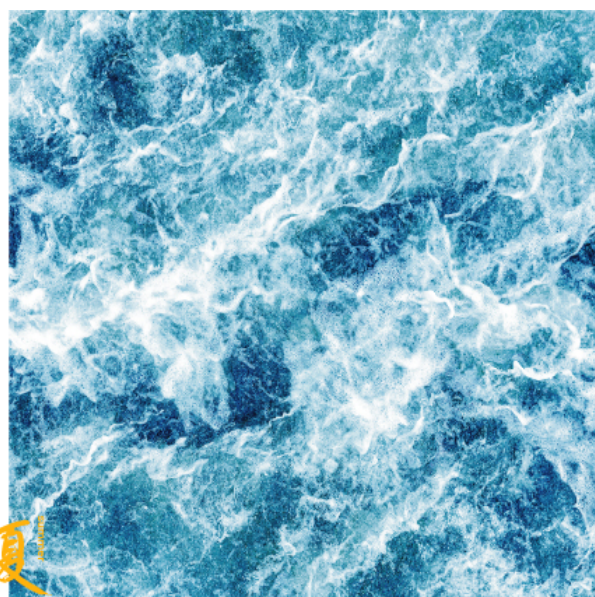
すみだかわどとう 『隅田川怒涛』夏プログラム・ラインアップを発表



隅田川怒涛

storm
and
urge

storm and urge
effortless
and it is, the
type is space.
the conversation
the way
the way the way
music &
art festival



左：©一般財団法人 北斎館 / 右：©小山泰介

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催するTokyo Tokyo FESTIVALスペシャル13のうちの一つとして開催する『隅田川怒涛』は、隅田川をひとつの舞台に見立てた参加型の音楽とアートのフェスティバルです。日本を代表するアーティストたちが、音楽を軸にしたライブ、パフォーマンス、インスタレーションなどを「春」と「夏」の2回にわたって展開します。春会期は、5月22日(土)と23日(日)にオンラインライブ配信しました。

この度、夏会期を2021年8月13日(金)～9月5日(日)に開催することが決定しました。新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に講じ、芸術活動を通じて丁寧にゆっくりと、隅田川を会所として、オンラインとオフラインとを駆使しながら人と人との関わり合いを再起動していけるような3つのプログラムを実施します。

実施概要

- 会期 : 2021 (令和3) 年 8 月 13 日 (金) ~ 9 月 5 日 (日)
- プログラム名 (アーティスト) : 01 「自然を主旋律としてピアノは調和を」 [サウンドインスタレーション]
アーティスト: 高木正勝
日時: 8 月 13 日 (金) ~ 19 日 (木)
平日 15:00 ~ 19:30、土・日 10:00 ~ 19:30
会場: 東京都墨田区向島 1-3 (隅田公園 墨田区側)
- 02 「water state 1」 [インスタレーション]
アーティスト: 坂本龍一 + 高谷史郎
日時: プレスプレビュー 8 月 21 日 (土) 午後
一般公開 8 月 22 日 (日) ~ 9 月 5 日 (日)
平日 12:00 ~ 20:00、土・日 10:00 ~ 20:00
会場: 東京都墨田区東向島 3-22-10 (北條工務店となり)
- 03 「天空の黎明」 [無観客オンラインライブ配信]
アーティスト: 稲葉俊郎、GOMA、コムアイ、中山晃子 ほか
日時: 9 月 4 日 (土) 深夜 24:00 ~ 9 月 5 日 (日) 5:00
ライブ配信会場: 東京スカイツリー天望デッキ フロア 350
参加費: 無観客オンラインライブ配信
(視聴方法は後日公式 WEB サイトで公表します)
- 参加費 : 無料 (一部要事前予約、オンライン配信あり)
- 公式 WEB サイト : <https://dotou.tokyo>
- 主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



- 後援 : 中央区、台東区、墨田区、江東区、北区、荒川区、足立区、
公益財団法人東京都公園協会
- 特別協力 : 「隅田川 森羅万象 墨に夢」実行委員会
- 協力 : 株式会社片岡屏風店、Kab Inc. / Kab America Inc.、commons、
Syntax Japan Inc.、dumb type office、秩父まるとジオパーク推進協議会、
東武タワースカイツリー株式会社、山口情報芸術センター [YCAM]
- メディアパートナー : CINRA.NET、J-WAVE
- 企画・運営 : NPO 法人 トッピングイースト



- 特別協賛 :

- 協賛 :

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、実施内容に変更が生じる可能性があります。

01 「自然を主旋律としてピアノは調和を」



アーティスト | 高木正勝
 日時 | 8月13日(金)～19日(木)
 平日15:00～19:30、土・日10:00～19:30
 会場 | 東京都墨田区向島1-3 (隅田公園 墨田区側)
 参加費 | 無料、予約不要

かつては水戸藩の下屋敷であり、関東大震災からの復興のために整備された隅田公園。2020年には墨田区側の南部エリアが改修され、憩いの場として親しまれています。この公園で、高木正勝による、自然からの音を迎え入れてありのままにピアノを奏でるプロジェクト〈Marginalia〉をサウンド・インスタレーションとして展開します。〈Marginalia〉は、東京の都市空間に作られた公園で、どのような調和をもたらすのでしょうか。



たかぎまさかつ
 高木正勝

音楽家/映像作家。1979年生まれ、京都府出身、兵庫県在住。長く親しんでいるピアノで奏でた音楽、世界を旅しながら撮影した「動く絵画」のような映像、両方を手掛ける。細田守監督『未来のミライ』の映画音楽をはじめ、NHK連続テレビ小説『おかえりモネ』のドラマ音楽、CM音楽などコラボレーションも多数。2018年11月、初の著書『こといづ』(木楽舎)を上梓。

02 「water state 1」



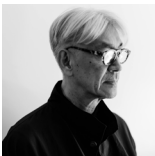
Installation view, water state 1, 2013, Ryuichi Sakamoto + Shiro Takatani, 'seeing sound, hearing time', courtesy M WOODS HUTONG, Beijing, 2021.
 Photo by M WOODS photography team

アーティスト | 坂本龍一+高谷史郎
 日時 | プレスプレビュー：8月21日(土)午後
 一般公開：8月22日(日)～9月5日(日)
 平日12:00～20:00、土・日10:00～20:00
 会場 | 東京都墨田区東向島3-22-10 (北條工務店となり)
 参加費 | 無料、事前予約制

8月13日(金)から事前予約を公式WEBサイトにて受付開始します。地球上の生命を支える根源的な物質であり、環境条件によってその様態を自在に変える「水」。坂本龍一は「水」に対して、さまざまなインスピレーションの源泉として強い関心を示してきました。高谷史郎との共作となる本インスタレーションの構想を進める中、水滴を制御し、自在に落下させることができる装置をYCAM InterLabが開発。水の様態の変化を表現した庭のような作品が完成し、2013年に初公開されました。(山口情報芸術センター [YCAM] 委嘱作品)

作品中央にある鏡面のような漆黒の水面には、水滴が波紋となって広がり、それと応答するように精緻で細密なサウンドが会場を包み込みます。地球上の気象データを元にして、水滴の落ちる量や場所が変化し、そのひとつひとつの雫が水面と交わることで波紋となり、重なり合いながら「水」へと選っていきます。

今回の作品で使用する「水」は、隅田川の水を汲み取り濾過を施して使用します。また、作品で使用する「石」は隅田川の本流である荒川の源流の秩父より、古くは約3億年前の石を採取して展示します。



さかもとりゅういち
 坂本龍一

1952年東京生まれ。1978年『千のナイフ』でソロデビュー。同年『YELLOW MAGIC ORCHESTRA (YMO)』に参加。散開後も多方面で活躍。映画『戦場のメリークリスマス』(大島渚監督作品)で英国アカデミー賞を、映画『ラストエンペラー』(ベルナルド・ベルトルッチ監督作品)の音楽ではアカデミーオリジナル音楽作曲賞、グラミー賞、他を受賞。常に革新的なサウンドを追求する姿勢は世界的評価を得ている。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」の創設、「stop rokkasho」、「NO NUKES」などの活動で脱原発支持を表明、また「東北ユースオーケストラ」を立ち上げるなど音楽を通じた東北地方太平洋沖地震被災者支援活動も行っている。2013年山口情報芸術センター(YCAM)10周年事業のアーティストティック・ディレクター、2014年には「札幌国際芸術祭2014」のゲストディレクターに就任。2017年には8年ぶりとなるソロアルバム『async』を発表し、「設置音楽展」と題して『async』を主題とするインスタレーション作品展を開催。2018年韓国・ソウルに完成したアートスペース piknicにおいて複数のインスタレーション作品を展示した「Life, Life」展を開催し、6万人以上を動員した。2021年3月にはこれまで発表されたインスタレーション作品を集めた大規模展示「Ryuichi Sakamoto: seeing sound, hearing time」を中国・北京の美術館 M WOODS HUTONG (木木美術館)でスタート、同年6月には1999年のオペラ「LIFE」に次ぐ新作舞台作品「TIME」がHolland Festivalで世界初演されるなど、音楽表現に留まることなく、アート界への越境も積極的に行っている。



たかたにしろう
 高谷史郎

1963年生まれ。京都市立芸術大学環境デザイン専攻卒業。1984年からアーティストグループ「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館、アートセンターで公演/展示を行う。1998年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。パフォーマンス「明るい部屋」(初演:2008年ドイツ世界演劇祭)、「CHROMA」(初演:2012年滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)、「ST/LL」(音楽:坂本龍一/初演:2015年ル・ヴァルカン国立舞台、フランス)を制作。マルセイユ・フェスティバル、東京・新国立劇場、台北・國家兩廳院等での公演や、ボンビドーセンター・メッス(フランス)、シャルジャ・ビエンナーレ(UAE)などでの作品展示、東京都写真美術館での個展等。2021年6月、坂本龍一+高谷史郎「TIME」をオランダ・フェスティバルで世界初演。2022年ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展でダムタイプが日本代表作家として日本館で展示予定。

03 「天空の黎明」



© TOKYO-SKYTREE

アーティスト
日時
ライブ配信会場
参加費

稲葉俊郎、GOMA、コムアイ、中山晃子 ほか
9月4日(土) 深夜24:00～9月5日(日) 5:00
東京スカイツリー天望デッキ フロア350
無料、無観客オンラインライブ配信
トッピングイーストYouTubeチャンネルにて生配信。
詳細は公式WEBサイトにて。

『隅田川怒涛』のクロージングを飾る、オンラインライブ配信イベント。日本が誇る表現者が集結し、ライブやトークなどさまざまな演目を東京スカイツリー®の展望台から配信します。新型コロナウイルスのパンデミックにより、まだまだ先行きが不透明な状況の中、深夜から始まり視聴者と共に日の出を迎えることで、黎明(＝明け方。転じて「黎明期」とは、ある事柄が形になる前の始まりの時期を表す)を画面を通じてお届けします。

東京における最前線の表現を、高さ世界一の自立式電波塔の天空から全世界に向けて発信し、芸術文化の未来を描きます。



稲葉俊郎

1979年熊本生まれ。医師、医学博士、東京大学医学部付属病院循環器内科助教(2014-2020年)を経て、2020年4月より軽井沢病院副院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(山形ビエンナーレ2020 芸術監督 就任)。在宅医療、山岳医療にも従事。未来の医療と社会の創発のため、あらゆる分野との接点を探る対話を積極的に行っている。単著『いのちを呼びますもの』(2017年)、『いのちは のちのいのちへ』(2020年)(アノニマ・スタジオ)、『ころころするからだ』(2018年、春秋社)、『からだところどころの健康学』(2019年、NHK出版)、など。



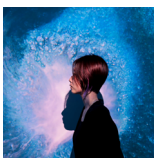
GOMA

オーストラリア、アボリジナルの伝統楽器ディジュリドゥ奏者として活動していた2009年交通事故に遭い外傷性脳損傷による高次脳機能障害と診断され活動を休止。事故後、突然緻密な点描画を描きはじめる。プリミティブな衝動に突き動かされた自由な発想と独特な色彩感覚が特徴的な絵画により画家としても活動を開始。2012年GOMAを主人公とする映画「フラッシュバックメモリーズ3D」が東京国際映画祭にて観客賞を受賞。2019年 詩人の谷川俊太郎との共著、自身初の画集『Monad』出版。



コムアイ

アーティスト。1992年生まれ、神奈川育ち。ホームパーティで勧誘を受け歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを廻る。2019年4月3日、屋久島でのフィールドワークをもとにプロデューサーにオオルタイチを迎えて制作した音源「YAKUSHIMA TREASURE」をリリースし、公演を重ねる。2021年、新しい形の音楽体験「YAKUSHIMA TREASURE ANOTHER LIVE from 屋久島」をオンラインにて公開。現在はオオルタイチと熊野に通いながら新作を準備中。2020年からOLAibiとのコラボレーションも始動。北インドの古典音楽や能楽、アイヌの人々の音楽に大きなインスピレーションを受けながら音楽性の幅を広げている。音楽活動以外にも、ファッションやアート、カルチャーと、幅広い分野で活動。2020年にアートディレクターの村田実莉と、架空の広告を制作し水と地球環境の疑問を問いかけるプロジェクト「HYPE FREE WATER」が始動するなど、社会課題に取り組むプロジェクトに積極的に参加している。



中山晃子

画家。液体から固体までさまざまな材料を相互に反応させて絵を描く「Alive Painting」というパフォーマンスを行う。科学的、物理的な法則に基づくあらゆる現象や、現れる色彩を、生物や関係性のメタファーとして作品の中に生き生きと描く。ソロでは音を「透明な絵の具」として扱い、絵を描くことによって空間や感情に触れる。近年では TEDxHaneda、DLECTRICITY ART FESTIVAL 2017 (US Detroit)、New Ars Electronica opening performance 2019 (オーストリア リンツ)、Biennale Nemo 2018 (フランス パリ)、MUTEK モントリオール等 にも出演。

新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症対策について

本イベントは新型コロナウイルスの感染症防止対策を徹底して実施します。

また、ご来場のお客様へも感染症対策へのご理解・ご協力を賜りたく、公式WEBサイトに記載の内容をご一読いただき、遵守くださいますようお願い申し上げます。

事前予約について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、「water state 1」会場入場には事前予約（無料）が必要です。8月13日（金）から事前予約を公式WEBサイトにて受付開始します。

映像プログラムについて

『隅田川怒涛』開催内容変更に伴い、春会期で実施を予定していた一部のプログラムを映像作品として配信します。詳細は後日公式WEBサイトにて発表します。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。 公式WEBサイト：<https://tokyotokyofestival.jp>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVALの中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、展開しています。 公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp>

本リリース内容に関するお問合せ先

『隅田川怒涛』事務局 (NPO 法人トッピングイースト) 広報窓口：冠

Tel：080-9671-7507 (平日 11:00～18:00) E-Mail：press@dotou.tokyo

『隅田川怒涛』WEBサイト：<https://dotou.tokyo>

NPO 法人トッピングイースト WEBサイト：<http://www.toppingeast.com>